



マウンテンバイクで市内を回る子どもたち

自然の中で貴重な体験

ハチ高原子ども長期自然体験村

子どもたちが自然の中で野外活動に挑戦する「ハチ高原子ども長期自然体験村」が、8月1日から15日にわたってハチ高原を中心に行われました。

市内外から参加した小学4年生から中学3年生までの子ども22人は、氷ノ山登山や鶯縄溪谷での滝登りなど、普段なかなか体験できないプログラムに挑戦しました。

マウンテンバイクで5日間かけて養父市を1周するプログラムでは、自分たちで計画した内容に沿ってハチ高原から天滝公園、石ヶ堂古代体験村、妙見自然の家などを巡り、約100^{キロ}の厳しいコースを全員が無事に完走しました。

心と心をつないだ交流会

希望王国キャンプで交流深まる

平成8年から阪神大震災で傷ついた子どもたちの心を癒そうと、奥米地で行われてきた「希望の王国夏休みキャンプ」。8月4日から3日間の日程で最後を迎え、希望王国グラウンドで開かれた「ありがとうの集い」に、公募した被災児64人に加え、毎回キャンプを支えてきた地元の人たちも参加しました。

開催されたこの9年間に、阪神間から約2、700人の子どもたちがこの地を訪れ、豊かな自然を満喫。地元の人たちとの交流を深めながら、心と心をつないできました。



地元の子どもたちに記念品を渡すキャンプ参加者



思い出話で盛り上がる同窓生

思い出話で盛り上がる

八鹿小学校同窓会が「希望の塔」を開扉

8月15日、八鹿小学校同窓会総会と同窓会行事の「希望の塔開扉式」が八鹿小学校で行われました。

希望の塔は、八鹿小学校で学んだ一人ひとりが明るい夢と希望を持って、たくましく成長してくれることを願い、昭和59年に同窓会とPTAが建立したものです。以来、卒業生が学校での思い出や将来への夢と希望を記した「立志の書」を収蔵し、20歳になる年に開扉しています。

今年も、平成7年度卒業生70人のうち30人が出席。同年卒業生代表者が「私たちは元氣盛りの20歳です。今日は楽しい一時を過ごしましょう」とあいさつした後、開封した思い出の写真や作文などを見て、友人と当時の話で盛り上がりました。